

現代アートにおける“若手作家の登竜門”

『VOCA展2017 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』開催！

=VOCA賞／幸田千依さん=

会期：2017年3月11日(土)～30日(木)／会場：上野の森美術館

今年で24年目となる「VOCA（ヴォーカ）展」(The Vision of Contemporary Art／主催：「VOCA展」実行委員会／公益財団法人日本美術協会 上野の森美術館、特別協賛：第一生命保険株式会社)が、3月11日(土)から3月30日(木)までの20日間(開館時間：10:00～18:00／会期中無休)、『VOCA展2017 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』と題して、上野の森美術館(東京都台東区)にて開催されます。

『VOCA展2017』では、作家35名による出品作の中から、グランプリとなるVOCA賞に、東京都在住の画家・幸田千依さん(東京都生まれ、長崎県育ち)の「二つの眼を主語にして」(4頁参照)が決定したほか、VOCA奨励賞には上田良さん、鈴木基真さん、佳作賞には青木恵美子さん、村上華子さんが選出されました。また、大原美術館賞には青木恵美子さんが、同美術館独自の選考を経て選出されました。

「VOCA展」は、現代アートにおける平面の領域で、国際的にも通用するような将来性のある若い作家の支援を目的に1994年より毎年開催している美術展です。

日頃から公平な立場で作家たちと接している全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどから推薦委員を選出し、それぞれ40歳以下の若い作家1名を推薦していただき、推薦された作家全員に展覧会への出品を依頼しています。こうしたシステムにより、東京のみならず全国各地で活躍する優れた未知の才能を毎回紹介しています。

これまで「VOCA展」に出品した作家は、延べ821人。福田美蘭(1994年VOCA賞)、やなぎみわ(1999年VOCA賞)、蜷川実花(2006年大原美術館賞)、清川あさみ(2010年佳作賞)など多方面で活躍している作家たちが出品しています。この間VOCA展は「平面」という一貫した切り口で若い世代の動向をヴィヴィッドに反映しながら、まさに「今日の美術」を見せてきました。

『VOCA展2017』受賞者一覧

■VOCA賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
幸田 千依 (こうだ ちえ)	1983	東京都大田区	二つの眼を主語にして	アクリル、油彩、カンヴァス

■VOCA奨励賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
上田 良 (うえだ やや)	1989	大阪府茨木市	4つのオブジェと1つの視点	インクジェットプリント
鈴木 基真 (すずき もとまさ)	1981	東京都国立市	Ghost #4	ライトボックス

■佳作賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
青木 恵美子 (あおき えみこ)	1976	埼玉県鴻巣市	1. 見知らぬ果ての 2. PRESENCE No40	1. アクリル、油彩、パステル、カンヴァス 2. アクリル、アクリル板、パネル
村上 華子 (むらかみ はなこ)	1984	フランス・パリ	1. ANTICAMERA(OF THE EYE)#E1 2. ANTICAMERA(OF THE EYE)#P4	シルバークラウドプリント

■大原美術館賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
青木 恵美子 (あおき えみこ)	1976	埼玉県鴻巣市	1. 見知らぬ果ての 2. PRESENCE No40	1. アクリル、油彩、パステル、カンヴァス 2. アクリル、アクリル板、パネル

【会期中にさまざまな関連イベントを実施】

『VOCA展2017』では作品展示のほか、シンポジウム「VOCA展—過去・現在・未来—」<3月10日（金）15:00～17:00>をはじめ、受賞作家による「アーティスト・トーク」<3月11日（土）・18日（土）15:00～16:00>、「学芸員によるトーク」<3月12日（日）、19日（日）15:00～16:00>などを開催します。

加えて、上野の森美術館の別館ギャラリーでは、VOCA展にゆかりのある作家の小企画展を同時開催します。今回は、「VOCA展2007」出品者の金氏徹平さんによる個展を開催します。

※詳細は8ページをご参照ください。

【公式ページで「VOCA展」の情報を公開】

上野の森美術館ホームページ内では、『VOCA展2017』の最新情報を随時公開します。

<http://www.ueno-mori.org>

【第一生命ギャラリー】

第1回開催よりVOCA展の運営をサポートしている第一生命保険株式会社は、毎回VOCA賞、VOCA奨励賞受賞作品を収蔵し、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命ギャラリー（東京都千代田区）での定期公開に加え、全入賞者に対して、同ギャラリーを個展の会場として提供しています。

なお、第一生命ギャラリーでは、『VOCA展2017』の開催に合わせ、過去の受賞作品を展示する「VOCA受賞作品展」<2月20日（月）～3月31日（金）>を開催します。

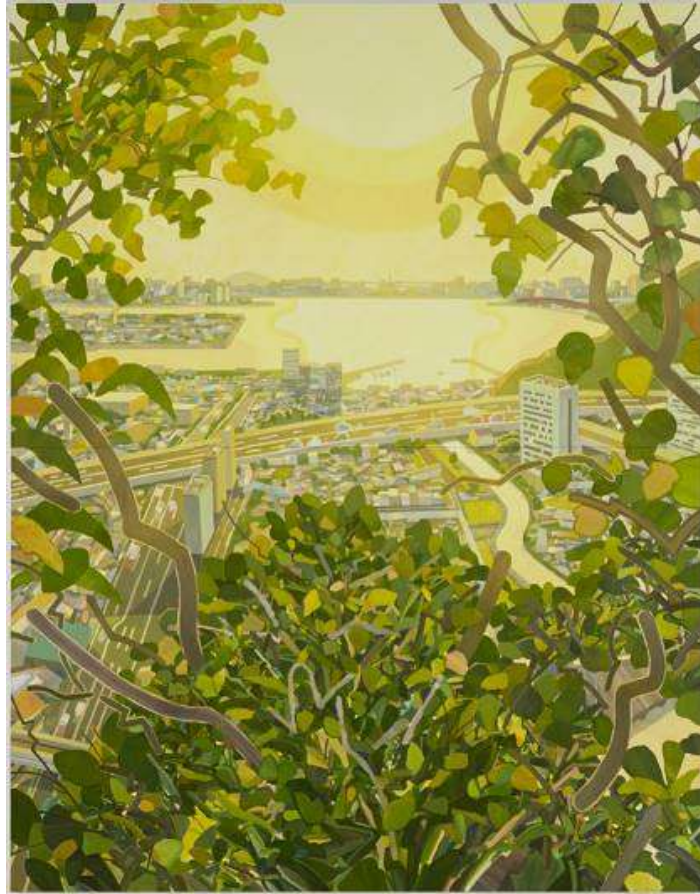
※詳細は8ページをご参照ください。

VOCA展実行委員会

- | | | |
|--------|-------|------------------------|
| ■委員長： | 建畠 哲 | （多摩美術大学学長） |
| ■副委員長： | 本江 邦夫 | （多摩美術大学教授） |
| | 武富 正夫 | （第一生命保険株式会社取締役常務執行役員） |
| ■委員： | 島 敦彦 | （愛知県美術館館長） |
| | 光田 由里 | （DIC川村記念美術館学芸課長） |
| | 柳沢 秀行 | （大原美術館学芸課長） |
| | 泉 菜々子 | （第一生命保険株式会社 DSR 推進室課長） |
| | 坂元 暁美 | （上野の森美術館主任学芸員） |

「VOCA展2017」 開催概要

- ◆名称 「VOCA展2017 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」
 - ◆主催 「VOCA展」実行委員会、公益財団法人日本美術協会 上野の森美術館
 - ◆特別協賛 第一生命保険株式会社
 - ◆会場 上野の森美術館（東京都台東区上野公園1-2）
 - ◆会期 2017年3月11日（土）～3月30日（木）〔20日間／会期中無休〕
 - ◆開館時間 10:00～18:00 ※入場は閉館30分前まで
 - ◆入場料 一般600（500）円、大学生500円、高校生以下無料 ※（ ）は前売料金
 - ◆チケット チケットぴあ（Pコード：768-108）、ローソンチケット（Lコード：33423）、e+（イープラス）、CNプレイガイド、楽天チケットほか、セブン-イレブン、サークルK・サンクス、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート
 - ◆図録 2,000円
 - ◆推薦委員 「VOCA展」実行委員会から選出された全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどに、作家1名の推薦を依頼
 - ◆出品作家
 - ・推薦委員の推薦に基づき、「VOCA展」実行委員会より依頼した作家、国籍不問
 - ・1976年4月1日以降生まれ（40歳以下）※同展会期中（2017年3月）に40歳以下であること
 - ・過去23回開催した「VOCA展」の出品作家（受賞者含む）も可
 - ◆出品作品
 - ・平面作品
 - ・抽象、具象、素材は問わない
 - ・出品時からさかのぼって1年以内に制作された、未発表の作品
 - ・作品サイズは、250cm×400cm以内の壁面（タテ形、ヨコ形は不問）に展示できるもの
 - ・作品単体のサイズ（輸送時）は、250cm×200cm以内とし、複数の作品、パネル等のジョイントにより250cm×400cm以内の壁面に展示できるものとする
 例：250cm×200cmのパネル2枚を会場でジョイントして250cm×400cmとすることは可
 250cm×400cmの巻キャンバスと木枠を会場で組み立てることは不可
 - ・作品の厚さは、20cm以内
 - ・作品の重量は、総重量80kg以内、個々で40kg以内
 - ・展覧会場で制作および長時間の展示作業を必要としない完成作品
 複数の作品もしくは部分で構成される場合は明確な展示図面、指示書を提出すること
 - * 展示に支障をきたす作品は不可
 - * 作品は第三者の権利（著作権、肖像権など）を侵害しないこと
 - * 作品が出品規定を満たしているかの最終的な判断は主催者に委ねられる
 - * 作品の展示場所は、主催者側の判断で決める
 - * 展示壁面の高さは、250cm～500cm（展示室によって異なる）
 - ◆選考委員
 - 建島 哲 （多摩美術大学学長）
 - 本江 邦夫 （多摩美術大学教授）
 - 島 敦彦 （愛知県美術館館長）
 - 光田 由里 （DIC川村記念美術館学芸課長）
 - 柳沢 秀行 （大原美術館学芸課長）
 - ◆賞
 - VOCA賞 1名 正賞および副賞（300万円）
 - VOCA奨励賞 2名 正賞および副賞（100万円）
 - 佳作賞 2名 正賞
 - ※上記3賞は、選考委員が選考します
 - ※選考により、「該当者なし」のこともあります
 - ※VOCA賞、VOCA奨励賞は、第一生命保険株式会社の収蔵作品となります
 - 大原美術館賞 1名 正賞および副賞
 - ※大原美術館賞は、館の代表者がVOCA賞、VOCA奨励賞以外から選定し、作者の了解のもと、同館の収蔵作品となります
 - ※上記4賞（最大6名）の入賞者には、第一生命ギャラリーでの個展の機会が与えられます
- ※第一生命保険株式会社は、VOCA展の運営サポートを行うほか、受賞作品を収蔵し、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命ギャラリー所蔵作品展で同作品の定期的な公開を行っています。また、受賞者による同ギャラリーでの個展も随時開催しています。



幸田 千依(こうだ ちえ)

「二つの眼を主語にして」

アクリル、油彩、カンヴァス

[291cm×227.3cm]

●VOCA賞受賞者 幸田千依さんのコメント

このような賞を頂き、予想を超えてこれまで様々な土地で出会った皆様の喜びの声を聴くことができ、大変驚くとともに心から嬉しく思っています。

かれこれ7年ほど、絵を描くことと様々な土地で暮らすことの両方を一つの歯車のように行ってきましたが、そこには常にズレがあり、そのズレを次へ次へ進みながら新しく調整をしてきました。

その中で徐々に浮かび上がってきたことはやはり、自分のもつこの眼の存在をなしにして、ものを感じたり考えたりすることはできず、自らが今立っている足場の感触とそこから見えているものを起点にその裏側や対極や真下をも見ていこうという、至ってシンプルな強い自覚でした。その自覚により、私の中から緊張した謎の観念（なぜか思い込んでいたこと）のようなものは徐々に消え、あるのは実感される相対関係との調和です。黄昏の光が街に広がって自分の顔に跳ね返ってくる、その熱を受ける眼と皮膚と足場を意識しながら、誰が見てもただ「絵」となって照り返すような作品を今はもっと描きたい。誰もが自分の持つ感覚で確かめることのできる、確かなものとしての絵を描きたいです。

この数年加速度を増してかみ合ってきた制作と暮らし、眼と手、によって今回の作品を描くことができ自分にとってもひとつの節目となりそうです。

これからも、時間をかけてノビノビとやっていきたいです。

◇推薦委員・辻瑞生氏のコメント（会場における本作品鑑賞のポイント）

それぞれが抱える微妙な違和感や歪みを、自分自身で肯定するかのようにバランスを取りながら暮らしている。幸田の制作は、複数の視点でモチーフを細部まで描き込み、その後隣り合う部分との歪みを修正することを繰り返していく。それはまるで、絶妙なバランスの上で成立している社会の縮図のようでもある。

「VOCA展2017」その他の受賞作品

【VOCA奨励賞】



上田 良(うえだ やや)
「4つのオブジェと1つの視点」
インクジェットプリント
[137.2cm × 92.2cm(額込み)が4枚]

【VOCA奨励賞】



鈴木 基真(すずき もとまさ)
「Ghost #4」
ライトボックス
[144cm × 91cm]

【佳作賞／大原美術館賞】



青木 恵美子(あおき えみこ)
「見知らぬ果ての」「PRESENCE No40」
アクリル、油彩、パステル、カンヴァス
アクリル、アクリル板、パネル
[111.2cm × 194cm／216.2cm × 112cm]

【佳作賞】



村上 華子(むらかみ はなこ)
「ANTICAMERA(OFF THE EYE)#E1」
「ANTICAMERA(OFF THE EYE)#P4」
シルバープリント
[170cm × 125cm(左)／180cm × 128cm(右)]

たてはたあきら

選考委員長 建島 哲（多摩美術大学学長）

今回のVOCA展は写真をも含めた平面による表現の多彩な可能性を改めて認識させてくれるものであった。VOCA賞の幸田千依の作品は一見穏当な風景画だが、近景と遠景の関係や空間の中の光への眼差しに独自の感覚が宿っている。奨励賞の上田良の作品では自らが制作したオブジェを撮影しインクジェットプリントにするという方法によって、表現的な要素の意味を中立化するというユニークなイメージに注目させられた。

もとえくにお

本江邦夫（多摩美術大学教授）

コンセプト、画材、寸法の点でここまで拡散・逸脱したVOCA展はちょっと記憶にありません。混沌とした世相の反映なのでしょうか？ それでもどこか焦点をずらしたような幸田千依さん（VOCA賞）の海を見下ろした広大な眺望には「風景」としての新味を、また青木恵美子さん（佳作、大原美術館賞）の、赤を基調とした抽象的な色面と側面にのみ彩色を施した一見透明なアクリル板を対比させた作品には画家としての志の高さと「絵画」に寄せる希望を感じました。

しまあつひこ

島敦彦（愛知県美術館館長）

絵画、写真、映像はもとより、観客関与型の作品まで、今回も異種格闘技的な様相を呈した。賞候補は、絵画と写真に二分され、決め手を欠く中で、僅差で幸田千依の抽象性を孕む穏やかな風景画がVOCA賞となった。共に自作の立体を写真にした上田良と鈴木基真が奨励賞、抽象絵画を2枚組みで示した青木恵美子と古い写真乾板を焼き付けた村上華子が佳作となった。媒体は多様だが、平面を意識した取り組みが注目された。

みつだゆり

光田由里（DIC川村記念美術館学芸課長）

カジュアルな方法で世界の断片をとらえ、それを読み込んでいく。軽い絶望のあとで作り始める、そうした態度が作品を集めた会場から感じられた。制作物を写真に撮って平面にする鈴木基真、上田良作品の、空間のレイヤーには読まれるべき細部が豊富にある。村上華子の写真の写真、青木恵美子のアクリル板には、小野さおりの鏡の絵のフェイクさと共振する、写す事への否があった。幸田千依の奥行きある風景に、アニメーション映画を思わせる生気を感じた。

やなぎさわひでゆき

柳沢秀行（大原美術館学芸課長）

奨励賞となった上田良をはじめ、川角岳大、Nerhol、益永梢子など、しなやかな手つきで絵画の形式を問いつつ造形的な達成においても注目すべき作品が印象に残った。それらに対して高松明日香、武内明子、松田啓祐、屋宜久美子など自らの生や感覚をナイーブに絵画へと発露させた作家達も目についたが、なかでも幸田千依の豊かな光に満ちた作品を描きあげた真摯な姿勢はVOCA賞にふさわしい素晴らしい成果であろう。

「VOCA展2017」出品作品一覧（作家35名／50音順）

作家名	生年	現住所	作品タイトル	素材
青木 恵美子	1976	埼玉県鴻巣市	1. 見知らぬ果ての 2. PRESENCE No40	1. アクリル、油彩、パステル、カンヴァス 2. アクリル、アクリル板、パネル
浅野 有紀	1976	岡山県岡山市	刻の波-15~17	墨、顔料、金泥、膠、絹
池平 徹兵	1978	東京都東大和市	居場所を知ったものたち	油彩、カンヴァス
上田 良	1989	大阪府茨木市	4つのオブジェと1つの視点	インクジェットプリント
小野 さおり	1981	神奈川県横浜市	Reflection	油彩、カンヴァス
加納 俊輔	1983	京都府京都市	C on the stage_01	インクジェットプリント、ベニヤ板
川角 岳大	1992	愛知県名古屋市	Untitled (IIIII)	木材、アルミ、ポリエチレンフィルム、 薄葉紙、磁石、ウール、カーペット、ビス、 ダルマピン、針金、カンヴァス
菊谷 達史	1989	石川県金沢市	Standing image	油彩、カンヴァス
来田 広大	1985	兵庫県淡路市	Bird's-eye view -Landscape of 360° from Nevado de Toluca	黒板塗料、チョーク、コンテ、カンヴァス
国松 希根太	1977	北海道白老郡	TIMESCAPE	アクリル、油彩、板
幸田 千依	1983	東京都大田区	二つの眼を主語にして	アクリル、油彩、カンヴァス
齋藤 瑠璃子	1984	秋田県仙北市	Zasso Obake	油彩、カンヴァス
坂口 竜太	1978	東京都小平市	1. 夜にみる風景 2. 家のある風景	油彩、カンヴァス
佐竹 真紀子	1991	宮城県宮城郡	Seaside seeds	アクリル、木製パネル
篠原 愛	1984	東京都三鷹市	Sanctuary/サンクチュアリ	油彩、綿布、パネル
鈴木 基真	1981	東京都国立市	Ghost #4	ライトボックス
高田 K 子	1977	北海道帯広市	Edge of Another World, Ueno Park, Tokyo	写真、木材、鏡、観賞用音楽プレーヤー、 カンヴァス、他
高松 明日香	1984	香川県高松市	印象材：鳥	アクリル、カンヴァス
武内 明子	1983	東京都中野区	これだけの夜	油彩、アクリル、パネル
田島 大介	1993	奈良県御所市	強制孤独景色	証券用インク、丸ペン、ケント紙、木製パネル
田中 秀和	1979	京都府京都市	Contingency Fx	油彩、カンヴァス
照沼 敦朗	1983	埼玉県さいたま市	ミエテル ノゾムの夢製造伝奇	ジェッツ、アクリル、ペンキ、モデリングペースト、 モニター、デジタルフォトフレーム、映像 (アニメーション)、DVD デッキ、木製パネル
土井 沙織	1981	山形県山形市	わたしの森	寒冷紗、石膏、水干、弁柄、段ボール、 ペンキ、木製パネル
仲田 絵美	1988	茨城県水戸市	よすが	写真(アクリルマウント)、紙、額
南条 嘉毅	1977	和歌山県東牟婁郡	羅城門	土、墨、アクリル、パネル、他
Nerhol (田中義久、飯田竜太)	田中 1980 飯田 1981	東京都渋谷区	Their Portraits(Nobuhito.M)	写真プリント、紙
東島 孝子	1984	滋賀県甲賀市	A River Runs Through It (Re-composition)	本、木、写真、他
益永 梢子	1980	神奈川県相模原市	われわれの小さな地図も、のびゆく蔓に 貼りついているとは	アクリル、ダーマト、アクリルボックス、木、 カンヴァス
松尾 勘太	1980	東京都国分寺市	1. Untitled 2. Untitled	油彩、カンヴァス
松田 啓佑	1984	京都府城陽市	untitled	油彩、カンヴァス
村上 華子	1984	フランス・パリ	1. ANTICAMERA(OF THE EYE)#E1 2. ANTICAMERA(OF THE EYE)#P4	シルバープリント
村田 宗一郎	1985	奈良県生駒市	Dawn of the Black Snow	アクリル、水彩、岩絵具、オイルコンテ、 紅茶、カンヴァス、パネル
屋宜 久美子	1980	沖縄県那覇市	gravitation	アクリル、紙
矢野 佑貴	1988	千葉県印西市	かくりみ	アクリル、ウレタン樹脂、合板に白亜下塗り
米田 拓朗	1979	東京都杉並区	その年の春が、暖かったなら	インクジェットプリント、木

「VOCA展2017」関連企画

■シンポジウム「VOCA展一過去・現在・未来」 ※要申込み（下記参照）／定員：150名

日時：3月10日（金）15：00～17：00／場所：上野の森美術館

モデレーター：建島哲

パネリスト：本江邦夫、島敦彦、光田由里、柳沢秀行 ※敬称略

＜シンポジウムお申込み・お問合せ＞

住所・氏名と、シンポジウム参加希望を明記のうえ、FAXまたはeメールにてお申し込みください。
定員となり次第、締め切らせていただきます。

◎申込み先：上野の森美術館「VOCA展」係

FAX：03-3833-4193／eメール：voca2017@ueno-mori.org

※申込みの際に取得した個人情報は、申込み者への通知および予定変更等の連絡のみに使用いたします。

◎問合せ先電話番号：03-3833-4191（上野の森美術館）

■受賞作家によるアーティスト・トーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要です。

受賞者が自作について語ります。（以下敬称略）

日時：3月11日（土）15：00～16：00

上田良（VOCA 奨励賞）、村上華子（佳作賞）

3月18日（土）15：00～16：00

幸田千依（VOCA 賞）、鈴木基真（VOCA 奨励賞）、青木恵美子（佳作賞／大原美術館賞）

場所：上野の森美術館

■学芸員によるトーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要です。

上野の森美術館学芸員が出品作品を紹介します。

日時：3月12日（日）、19日（日）15：00～16：00

場所：上野の森美術館

■同時開催

金氏徹平「記号は記号ではない」

日時：3月11日（土）～30日（木）10：00～18：00

場所：上野の森美術館ギャラリー

上野の森美術館の別館ギャラリーでは、VOCA展の会期に合わせ、同展覧会にゆかりのある作家の小企画展を開催します。今回は「VOCA展2007」出品者である金氏徹平さんの個展です。

＜トークセッション＞

3月11日（土）16：30～17：30／金氏徹平＋加納俊輔、田中秀和、東島孝子

■「第一生命ギャラリー」展示スケジュール（2017年1月現在）

開館時間：12：00～17：00 ※土・日・祝日休館

場所：東京都千代田区有楽町1-13-1 第一生命保険株式会社 日比谷本社1F

展覧会名	会期
VOCA 受賞作品展	2017年2月20日(月)～3月31日(金)

※「VOCA展2017」の作品画像や招待券読者プレゼント等のご要望につきましては、下記広報事務局にて承りますので、ご一報ください。

＜この件に関するお問合せ先＞

VOCA展広報事務局（株）ジェーワン内／担当：野尻、久保	TEL03-3584-4981／voca_pr@jone.jp
上野の森美術館（担当：坂元、大柳）	TEL03-3833-4191
第一生命保険株式会社（担当：佐賀、泉）	TEL050-3780-3639